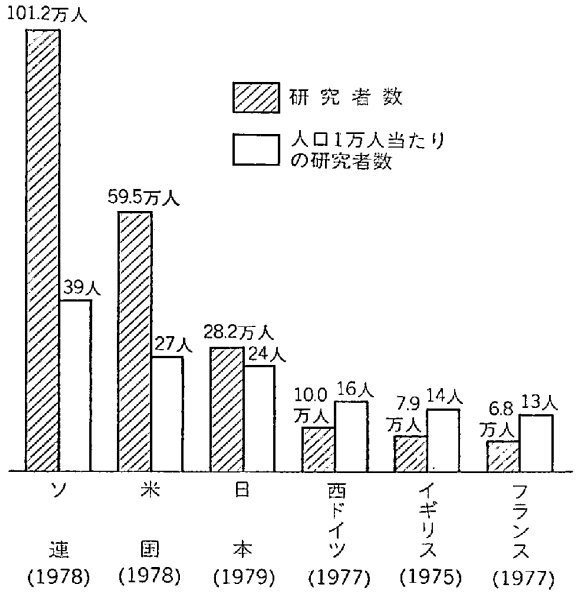
## 統　計

### 主要国の研究者数の比較

我が国の自然科学関係の研究者数* を主要国と比較したのが下図である．ソ連が 101 万 2 千人（推計）で最も多く，次いで米国 59 万 5 千人となつており，この両国は我が国のそれぞれ 3.6 倍，2.1 倍と圧倒的に多いが，西ドイツ，フランスは，我が国よりもはるかに少ない．人口 1 万人当たりの研究者数では，我が国は米国とほぼ並んでいる．

* 人文・社会科学部門の研究者数は自然科学部門のそれの約1/5である．

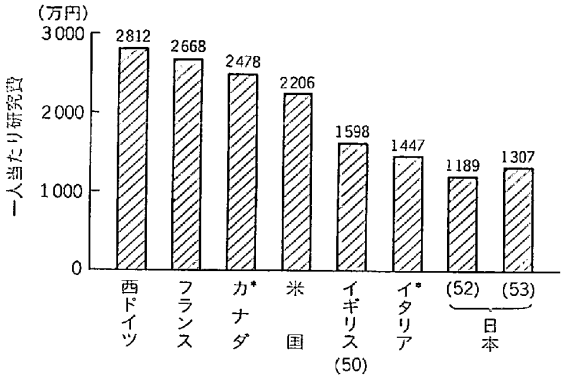



注）1．ソ連は，1978 年の全研究者数 1,314,000 人に 1974 年の自然科学分野の研究者の割合 77.0% を乗じた推定値である．
2．米国の研究者数は推定値．

主要国の研究者数の比較
（科学技術庁編：昭和 55 年版科学技術白書（昭和 55 年 8 月）p. 178）

### 主要国の研究者 1 人当たりの研究費

研究体制の相違などから単純な比較は困難であるが，1977 年の各国における研究者 1 人当たりの研究費を見ると下図のとおりで，西ドイツ 2812 万円，フランス 2668 万円，カナダ（大学等を除く） 2478 万円などは我が国の 1 189 万円の 2 倍以上である．




注）1．カナダおよびイギリスは，産業および政府部門のみの値である．
2．邦貨への換算は，付属資料 18 による．
3．フランスは，人文・社会科学を含む．
4．* は推定値．

主要国の研究者 1 人当たりの研究費の比較
（昭和 52 年度）

（科学技術庁編：昭和 55 年版科学技術白書（昭和 55 年 8 月）p. 176）

## 編集後記

▶鉄と鋼 9 号ができ上りました．今月号も技術資料・解説とも多彩な内容で力作ぞろいです．多忙の中御執筆下さつた諸氏に感謝いたします．各号に掲載されている“新しい技術”を見ると日本の工業がオイルショックを乗り切つた工夫と努力の跡を示している思いがします．鉄鋼業においては省力・省エネルギも行き着くところに来てしまつたという話も聞きます．しかしジュニアパーティーに出てみると鉄鋼に携わる新しい技術開発の担い手である若人のエネルギに圧倒されます．まだまだ行けるぞという感があります．日本の鉄鋼の益々の発展を祈ります．

▶第 101 回講演大会も盛況の内に大過なく終わりました．金属学会と合わせて会場数も 30 に近づき，大きな教室を確保することがしだいに難しくなつて来ています．プログラム編成時には十分注意を払つているのですが，聴講者が溢れる会場が目につきました．予測できない面も多いのですが反省の材料とさせていただきます．聴講者が最も多くなるのは第 2 日目の 13:00～15:30 の間で，調査によると今回はこの時間帯でおよそ 1 300 人の人々が本会の講演に耳をかたむけていたことになります．ポスターセッションも定着して来たように見受けられ，新形式の討論会も試みられました．またジュニアパーティも盛大で 180 名の参加がありました．まだこのパーティに出席したことのない方も多くいることと思います．盃をかたむけながら知己をふやし，鉄鋼の将来を語つてみて下さい．今後も活発なより有意義な講演大会に盛り上げていくよう工夫と努力を重ねていくつもりです．よろしくお願いします．第 102 回大会の講演募集も始まりました．秋にはまた京都でお会い致しましょう．　（T．S）